Team River（唐津市議会議員 古田リバー後援会）ニュースレター　発行：2025 年 5 月

〒847-0855 佐賀県唐津市西浜町 1-15
電話 070-3970-0774（直通）
メール info@team-river.com
https://team-river.com/

だるま通信 Vol.3

～高橋是清のひ孫から～

唐津市議会議員 ふるた リバー

よそ者の新人議員。現場をまわるうちに、言葉の奥にある想いをくみとり、「声」と「景色」が見えてきた。人と人、過去と未来、世界と唐津をつなぎたい。「日々感謝」を胸に、確実に唐津を前へ。

TOPICS

1. あなたの一票が、私をここに立たせた
2. 会派名「新風唐津」の由来
3. 学び、備え、飛び込んだ 3 月議会
4. 離島の暮らしを支える――公共施設整備計画
5. 暮らしを守る「骨格予算」――私たちの選択
6. 元気な市役所から始まる、元気な唐津
7. 佐志食堂で実感した“本物の食育”
8. 畑と蜂がつなぐ、笑顔の循環
9. 小さな機体、大きな夢

4 月、NHK「英雄たちの選択」で“ダルマ大臣”こと高橋是清が特集されました。農村の自立を目指した是清は、こう語った。「農村に限らず、失業者の問題でも無意味な救済はしてはならぬ。それは、相手に間違った安心を与えるからである。」彼の時代も、私たちの時代も、日本の課題はあまり変わっていない。私は、吟味を重ねて、市民に寄り添うい、一歩踏み込んだ「センスのいい政治」を目指します。

一票の重み　新たな風

1 あなたの一票が、私をここに立たせた

このたび、令和 7 年 1 月に行われた唐津市議会議員選挙において、皆さまの温かいご支援のおかげで、無事に議員としての道を歩み始めることができました。本当にありがとうございます。

最後の一議席をめぐる 1,174 票同数の異例の展開、深夜 2 時半のくじ引き当選、その後の異議申し立て――さまざまな局面を経て、3 月中旬、正式に当選が確定しました。

改めて、「一票の重み」を心から実感しています。

誰か一人の想いが、この町の未来を動かす――その力を、選挙の現場で目の当たりにしました。皆さまにとって「身近で、頼れる存在」となれるよう努め、小さな一歩を積み重ねながら、「誇れる唐津市」を共につくっていきたいと願っています。

この『だるま通信』では、日々の活動のご報告とともに、私自身の思いや、唐津への願いを、年 3 回ほどお届けしてまいります。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

2 会派名「新風唐津」の由来

会派名を決めるにあたり、皆で案を持ち寄り、じっくり話し合いました。

私は「虹清会（こうせいかい）」という名前を提案しました。「虹」には、唐津の象徴である虹ノ松原になじみがあり、七色の光のように異なる個性が調和し、希望・多様性・共存といった思いを込めました。「清」には、汚れのない潔さを持った政治を、という市民の皆さんの願いを重ねました。

話し合いを重ねた結果、言いやすさ、シンプルさ、誰にでも伝わるこの名前を、全員で選びました。

「新風唐津」。この会員一人ひとりが、新しい風です。14 番、新風唐津古田リバー。時代は違えど、背負うものは同じ。信念と実行で、かっこいい政治家になります。

人と自然が共に生きる唐津のかたち

7 子どもたちの未来のために――東京視察で得た、変えるヒント

唐津：実際に提供された学校給食

東京：自由時間に曾祖父へ活動報告

3 月の佐志食堂ランチは、香り豊かで体に沁みる美味しさ。地元食材にこだわり、盛り付けも工夫された、癒される食事でした。月に一度、誰もが栄養と愛情を受け取れるこの場所（大人 300 円・高校生以下無料）は、地域にとって本当に大切な存在です。

一方で、唐津市の学校給食の現状を知り、大きな衝撃を受けました。佐志食堂の温かな食事との落差に胸が痛み、子どもたちの給食がこのままでよいはずがないと強く感じました。

4 月末に会派の 5 名で佐賀県首都圏事務所、文部科学省、国土交通省、ふるさと回帰支援センターを訪問。視察を通じて、移住・定住や地域経済、防災、物流、教育など、私がこれからアクションを起こす方向も具体的に見えてきました。

税金を使った視察だからこそ、子どもたちの未来のために、学びを行動に移していきます。

8 「いただきます」と「ごちそうさま」を変える横枕農園

相知の横枕農園で、ナス畑のマルチ張りを手伝いました。T 字ピン“トンボ”の使い方や、シート張りのコツに驚きながら、農業の手間と工夫を肌で知りました。わずか 2 時間でも、畑に立つと、「いただきます」は働く人への言葉であり、「ごちそうさま」はいただいた命と時間に返すリスペクトの証だとわかります。

横枕農園では、日本ミツバチの養生プロジェクトが今年で 2 年目。これから南高の生徒たちと一緒に、地域 5 か所の巣箱の掃除と観察を始めます。最初は心配していた地域の方々も、昨年、生徒たちが採ったはちみつを使ったパンケーキやお菓子に笑顔。

今年は、フランス人カップルも農園ボランティアに参加。最初は戸惑っていた生徒たちも、最後は言葉を超えて笑っていた。畑と蜂を通して、人が集まり、相知に新しい賑わいをつくっています。

9 小さな機体、大きな夢――ドローン技能取得から

このたび、（一社）日本マルチコプター協会（JMA）主催のドローンパイロット養成コースを修了し、「無人航空機技能認定・JMA 無人航空機安全管理者」ライセンスを取得しました。ドローンは農業や観光、防災・見守りといった身近な分野だけでなく、国際情勢にも影響を与えるほどの存在になりつつあります。空に浮かぶ小さな機体ひとつに込められた意味を、深く見つめ直す時代に私たちは生きています。

議員として責任を果たすため、自ら講習を受け、法律や操作の基礎を学びました。風にあらがいながら懸命にホバリングする機体の姿が愛おしく、「ドローンちゃん、頑張れ！」とエールを送りながら飛行練習に励みました。

ドローンがつなぐ空と地上。その力を、唐津の新しい未来へ――次は国家資格に挑みます。

ご意見やご相談は、私のホームページまでお寄せください！

ふるたリバー　検索

＼ぜひフォローしてくださいね！／

ホームページ　ブログ　Instagram

想いと努力を重ねて 議会デビュー

4

学び、備え、飛び込んだ 3月議会

当選前は、「議員になったら少し休めるかも」と思っていましたが、実際には、そこからが本当の多忙のスタートでした。2月に就任してからは、選挙中の収支報告の提出、膨大な書類の読み込み、3月議会に向けた勉強会と準備に追われる毎日。勉強会では、雰囲気で理解していた言葉を日英辞典で一つひとつ確認しながら、「今しかない」と勇気を出してその場で質問してきました。

脳も体もクタクタで、毎朝続けていた7時から9時の交通安全活動を長く休むことになり、通勤・通学中の皆さんに挨拶できなかったことは今でも心残りです。

それでも、それでも「私の名前を書いて託してくれた1,174名の市民のために」という気持ちは、一度も揺らぎませんでした。

議案質疑、一般質問、賛成討論――3度の登壇を通して、今の自分にできることを精一杯やりきりました。議場でのすべてのやりとりが、私を鍛え、新しい視野と力を与えてくれました。

これからも、市民の声を受け止めながらしっかりと議場へ届けます。

議案質疑

4

離島の暮らしを支える――公共施設整備計画

議案質疑とは、提出された予算や計画が適切かどうかを、市職員（執行部）に対して確認する場です。

議員一人あたり持ち時間は90分で、執行部の答弁時間は含まれません。個人の意見や提案はできず、正当性を問うことに特化しています。

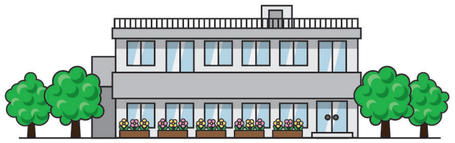
今回は、高島・梨川内・向島・馬渡島・小川島といった「辺地（へんち）」地域の公共施設整備計画に関する質疑を行いました。

辺地とは、交通・医療・教育などのインフラ整備が遅れやすい地域のこと。離島地域は特に、公共施設の整備が人々の生活に直結しているため、慎重な議論が求められます。

提供：（一社）唐津観光協会

今回の質疑で確認したポイントは次の3つです。

1. 計画の目的（老朽化施設の更新・長寿命化）
2. 特定財源がゼロである理由（補助対象外のため）
3. 地域ごとの具体的な整備内容



老朽化が進む地域での更新・長寿命化の必要性、特定財源ゼロでも「辺地債」を活用する方針が確認できました。一方、現地調査や住民の声を拾えず、90分の持ち時間を活かしきれなかったことが反省点です。

ふるたリバー後援会よりお知らせ

チームリバーの仲間を募集中！

唐津市政の発展と住民福祉の向上を
一緒に目指す方々とつながりませんか？

オンライン申し込み先

右のQRより、ご紹介・問い合わせ・意見交換ができます！

賛成討論

4

暮らしを守る「骨格予算」――私たちの選択

会派・新風唐津を代表し、議案に賛成討論を行いました。討論とは、議案に対する賛否を正式に表明する場です。

令和7年度当初予算案は、選挙後の「骨格予算」として福祉・教育・災害復旧を中心に編成され、約894億円と過去最大規模に。新唐津市民会館整備や豪雨災害の復旧費も盛り込まれています。

一部に民生費・教育費への反対意見もありましたが、会派を代表して、差別のない社会をめざす啓発活動の継続を重視し、賛成を表明。

現代は情報発信が容易になった一方、新たな形の差別も続いており、啓発は新しい手法を取り入れつつ、粘り強く続けるべきだと訴えました。

今後も、市長公約の実現に向けて、大切な税金が「ちゃんと生きる」使い方となるよう、議会の中でしっかり役割を果たしていきます。

一般質問

6

元気な市役所から始まる、元気な唐津 Mindful Room～リフレッシュできる場所を～

唐津市では2018年以降、毎年20人前後の自殺者が発生しています。人口減少や市民ニーズの多様化により職員の業務量は増す一方、DX推進やコスト削減で職員数は減少しており、一人ひとりへの負担が増えています。市長が示した「第4次 唐津市 定員管理計画」では、健康管理やワーク・ライフ・バランスの確保、働きやすい職場づくりが重点項目とされました。

国の労働安全衛生法により、従業員50人以上の事業所では年1回のストレスチェックが義務づけられ、市役所の受検率はほぼ100%です。しかし、改善活動が形骸化しないためには、実効性ある提案が欠かせません。

私は、ウェルビーイングとワーク・ライフ・バランスを明確に定義して、昼休みに空いている会議室を「Mindful Room」として開放し、職員が気軽に心身を整えられる環境づくりを提案しました。現在の庁舎には職員専用の休憩室がなく、窓口職員は市民ラウンジで人目を気にしながら昼食をとっています。

一方で、喫煙者にはリフレッシュできる喫煙所が確保されており、好きなタイミングで一息つける環境があります。非喫煙者にはそれがなく、この「機会格差」も見過ごせない課題だと感じています。

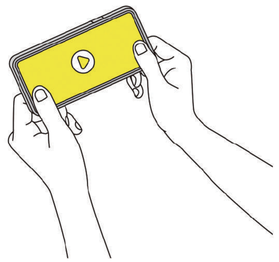
市役所職員が健康で、自分らしく働けるよう、6月の一般質問でも進捗を確認します。

一般質問の様子

一般質問の様子はこちらからご覧いただけます

唐津市議会　インターネット映像中継

令和7年第2回定例会　3月12日　本会議 一般質問

新風唐津　　古田　リバー　議員

職場でのメンタルヘルス対策について